

■追悼

故榎戸秀昭理事を悼む

鳥居方策*

日本神経心理学会の理事および編集委員である榎戸秀昭金沢医科大学神経精神科助教授は、平成7年4月28日午後2時38分に癌性疾患のため金沢医科大学病院において逝去されました。享年51歳でした。

榎戸秀昭先生は昭和18年5月23日栃木県益子市にお生れになり、昭和44年3月に金沢大学医学部を卒業され、直ちに金沢大学医学部神経精神科に入局されました。昭和52年に「断眠による側頭葉棘波の変動について」と題する論文により医学博士の学位を取得され、同年金沢医科大学神経精神科に講師として赴任され、翌53年には助教授に就任されました。

先生のご専門は精神生理学および神経心理学であります。精神生理学の分野では、抗うつ薬の作用とうつ病の病態生理を念頭に置いた睡眠ポリグラフの研究に従事され、若い医師たちの実験と論文作成を指導されました。神経心理学の分野では「主要論文」の欄に見られるように、超皮質性運動失語や Broca 失語などの症候論ならびに責任病巣について、精緻で行き届いた症例観察の成果を次々に発表されました。これらの研究により先生は次第に頭角をあらわし、日本神経心理学会の理事および編集委員だけでなく、日本失語症学会の評議員および編集委員、および「脳と精神の医学」の編集委員にも推挙され、この分野では誰一人として知らぬもののない大きな存在になっておられました。

先生は教育や診療の面でも非常に熱心であり、学生や患者たちの大きな信頼をかちえておられました。医局の中では公私両面にわたり、



故榎戸秀昭先生

頼り甲斐のある先生であると慕われておられました。また、家庭では3人のお嬢さんのよきパパであり、特に今春は長女の方の大学合格を非常に喜んでおられました。われわれの教室にとって、かけがえのない大切な先生を失ったことは極めて残念であります。日本神経心理学会にとっても、先生がユニークな研究を積み重ねておられただけに、大きな損失であると言わざるをえません。思いなからばで倒れられた先生にとっても、大変心残りであったことと拝察しております。

ここに、ありし日の先生を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

主要論文

榎戸秀昭：断眠による側頭葉棘波の変動について。

十全医学誌 86(4)；390-405, 1977

榎戸秀昭，鳥居方策，松原三郎ほか：いわゆる超皮

*金沢医科大学神経精神科

- 質性運動失語の1亜型について——左中前頭回後部を主病巣とする3例. 精神神経誌 83(5); 305-330, 1981
- 榎戸秀昭, 倉知正佳, 鳥居方策ほか: 超皮質性失語の1剖検例. 脳神経 35(11); 1131-1140, 1983
- 榎戸秀昭, 鳥居方策, 相野田紀子ほか: いわゆる超皮質性運動失語自発語障害について——病巣部位の異なる3症例での比較. 脳神経 36(9); 895-902, 1984
- 榎戸秀昭: 超皮質性運動失語. 精神医学 27(6); 671-677, 1985
- 榎戸秀昭, 三原栄作, 鳥居方策: 前頭葉と言語, 金医大誌 27(増刊); 239-245, 1985
- 榎戸秀昭, 三原栄作, 玉井顕ほか: 著明な文法レベルの障害を呈した1例. 神経心理 2(2); 174-181, 1986
- 榎戸秀昭: ローランド動脈と Broca 失語. 失語症研究, 8(1); 22-27, 1988
- 榎戸秀昭, 三原栄作, 玉井顕ほか: 前方失語と前ローランド動脈. 神経心理 4(2); 125-131, 1988
- 榎戸秀昭, 鳥居方策, 鈴木重忠ほか: 文法障害と系列運動障害の関連性について. 神経心理 9(1); 57-64, 1993